

300年の伝統を誇る歴史と現代に 先駆けたアイディアの宝庫を知る

立山で薬草が採れることから、立山信仰が起源だともいわれる富山の売薬。戦国時代の記録にも、越中の薬種商に関する記述があります。江戸時代には、藩の財政難を解消するため売薬産業が奨励されました。藩の

保護を受け商売を大きく発展させた売薬商人たちは、資本を蓄財し、後に県内産業の多くの分野に投資をしたことで、富山県の経済発展に大きく貢献しました。売薬産業を通じて、地元産業の重要性について考えます。

越中富山の売薬の歴史を学ぶ

1 池田屋安兵衛商店

江戸時代から続く老舗薬種商「池田屋安兵衛商店」では、趣のある店舗内で、今もこだわりの「座売り」を行っています。20数種の自家製和漢薬や200数種類以上の薬草から、顧客の症状に合う薬を調合する座売りについて、ガイドから詳しい説明が受けられます。この店では、昔ながらの丸薬製造器で作る「丸薬づくり」を体験できます。国内でも数少ない現役丸薬師の指導による珍しい丸薬づくりに無料で挑戦することができます。



池田屋安兵衛商店

【池田屋安兵衛商店】

〒930-0046 富山市堤町通り1-3-5
☎(076)425-1871 FAX(076)491-1698
<http://www.hangontan.co.jp/>
●開館時間 9:00~18:00
●体験時間 9:00~17:00
●所要時間 30分 ●施設定員 80人
●体験人数定員 3人 ●受入期間 通年
●入館料 無料
●駐車場 有【団体バス(50人乗り)2台】
●アクセス 富山ICから車で10分

2 廣貴堂資料館

白壁土蔵造りの館内には、売薬の歴史や製造工程などが楽しく理解できるさまざまな見どころが詰まっています。●広貴堂シアター／江戸時代から300年以上の伝統を持つ富山の薬の歴史と製造工程の今昔を大型スクリーンの映像で解説しています。●売薬展示室／薬業に関する貴重な資料が収められています。●展示室／越中売薬が江戸期から今日まで実際に使用した懸場帳などを見ることができます。●見どころ／県内の現存する配置薬ならではのレトロデザインの医薬品を常時100アイテム以上扱っています。ダルマ絵、熊の絵などその絵柄の意味も解説してもらえます。



廣貴堂資料館

【廣貴堂資料館】

〒930-8580 富山市梅沢町2丁目9-1
☎(076)424-2310 FAX(076)424-2310
<http://www.koukandou.co.jp/shiryokan/index.html>
email:museum@koukandou.co.jp
●開館時間 9:00~17:00
●所要時間 30分 ●施設定員 80人
●受入期間 通年(休館日 年末年始)
●入館料 無料
●駐車場 有【団体バス(50人乗り)3台】
●アクセス 富山ICから車で15分

周辺施設

金岡邸



江戸時代末期より薬種商を営んでいた金岡家の邸宅。当時の薬種商店舗の姿をとどめており、大資本家でもあった薬種商の興隆ぶりがしのばれる。

富山市民俗民芸村・売薬資料館



「富山の売薬資料」として国重要有形民俗文化財に指定されているものをはじめとする3,000点ほどの貴重な資料などを収蔵、一部を常設展示しています。また、敷地内には富山を代表する売薬商家であった密田家の土蔵があり、江戸時代から続く薬種商の雰囲気は今に伝えています。

富山県の産業の礎となった歴史を知る

300年の歴史を持つ富山の売薬産業の起源は、富山藩2代藩主前田正甫が、薬種商に「反魂丹」の生産と販売を命じたことが始まりとされています。その後、売薬業者は莫大な資本を蓄積し、明治期に入るとさまざまな事業に投資しました。江戸から明治、現代に至るまでの産業史を「薬」を通じて学習できます。

世界に先駆けたオリジナルのシステム

「先利後利」を学ぶ

お客様に先に薬を預けておいて、後に使用した分だけの代金を頂くシステムを「先利後利」といいます。世界に先駆けた一種のクレジット商法ともいえる「先利後利」を通じて、ビジネスの仕組みについて学びます。

現代における伝統医薬の知恵を探る

人口の高齢化が進むのに伴い健康意識が高まり、セルフメディケーション（自己治療）が見直されています。セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と世界保健機関（WHO）は定義しています。配置薬が今に伝えるセルフメディケーションの知恵や漢方と漢薬の特長について探ります。

見どころ
学びどころ

1

見どころ
学びどころ

2

見どころ
学びどころ

3